平成30年度　　みやき町立三根東小学校　学校評価結果

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
豊かな心をもち、自ら学び、進んで行動する児童の育成	①学力の向上を図る ②道徳教育・特別活動の充実と生徒指導の強化 ③健康・安全教育の徹底強化 ④特別支援教育,人権・同和教育・同和教育の推進 ⑤地域に開かれ,信頼される学校づくり ⑥健康で明るい教師が高きに和す学校づくり

達成度　A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①学力の向上を図る

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	校内研究の充実 教職員の研修充実	・各自年1回以上提案授業を実施する。 ・教育センター講座及び研究発表会等へ1人1回以上参加する。 ・東部教育事務所等より3回以上研修を受ける。	・授業力向上を目指した授業研究会を8回実施する。 ・研修後の報告の場をもち、新しい情報を共有する。 ・授業振り返りシートを活用し、日々の授業改善を行う。	A	・各自年1回の提案授業は実施できた。それ以外にも、6年生は地区教科等部会の外国語の研究授業を実施した。 ・年度当初に、計画をたて、1人1回以上の教育センターへの参加ができた。その他、他校の研究発表会等への参加も積極的に行うことができた。 ・東部教育事務所から校内研ではすべての授業研究会に講師としてきていただいた。また、道徳の評価の研修2回、学力向上の研修1回など学校の課題に応じた研修ができた。	・授業研究会を8回実施ができた。研究会では、東部教育事務所の岡田指導主事にすべて（1年～6年の全学級及び特別支援学級2学級）来ていただき、ご指導をしていただいた。 ・研修後、報告が義務付けられた研修について、時間を設定し、共通理解を図ることができた。 ・授業の振り返りシートについては、東部教育事務所から配布された、「授業づくりのステップ1・2・3」の内容を活用し、全員で共通理解することができた。ステップ1については、全学級で実施でき、ステップ2、ステップ3の完全実施を目指し、日々の授業の改善に取り組んでいる。
教育活動	●学力の向上	基礎・基本の確実な定着	・4教科（国社算理）単元ごとのテスト到達度を85%以上にする。 ・毎日の家庭学習の達成率を90%以上にする。	・朝の会（健康観察・素読・計算タイム）を継続する。 ・合同計算タイムを2回開催する。 ・朝の学習タイムでタブレットPCを積極的に活用する。 ・『家庭学習がんばろう週間』を毎学期1回実施する。	B	・各学年とも、4教科（国社算理）の単元ごとの市販テストの到達度が概ね90%を超えていることから目標を達成することができたといえる。 ・「合同計算タイム」「朝の学習タイムのタブレットPC活用」「家庭学習がんばろう週間」を計画的に取り組むことができた。 ・「家庭学習がんばろう週間」での家庭学習の取り組みについては、個人・学年によって差があり、十分とは言えない。	・家庭学習の取り組み方については、教師が積極的に呼びかけ、全員が取り組むようにする。取り組み状況を保護者へ連絡し、家庭の意識を高めていく。
		指導方法改善 (少人数・TT) 授業中の児童の活動・学習意欲 各種テスト等学習状況の調査	・全国・県学力状況調査・CRTの結果で全国平均を上回る。 ・「算数が分かる」という児童を85%以上にする。	・児童の実態に応じて習熟度別少人数授業など学習形態を工夫した授業を行なう。 ・授業の中で互いの学びを伝え合い生かす場を設ける。 ・デジタル教科書やタブレットPCの利活用を行う。	A	・児童の実態に応じた学習形態を変えることで、全国・県学習状況調査・CRTの結果が全国平均を上回ることができた。 ・授業の中で、目的意識をもって学び合う（話し合う）ことができ、96%以上の児童が算数が「分かる」「だいたい分かる」と答えた。 ・全単元でデジタル教科書を、図形領域でTPCを活用することで理解を深めることができた。	・習熟度別少人数授業を計画的に行ったり、学び合う（話し合う）場を取り入れたりすることで、学習意欲を高め、確実な学習理解につなげたい。 ・デジタル教科書（全単元））やTPC（図形領域を中心に）を計画的に活用することで、学習効果を高めていきたい。
		読書指導の充実	・年間読書冊数一人1～4年100冊以上、5・6年70冊以上達成90%を目指す。 ・子どもたちが、読書に関心を持つような啓発・環境の工夫を行なう。	・読んだ本の冊数が視覚的にわかるような表を作り、掲示する。 ・読書タイム，おすすめの本コーナー，図書館便りを活用し、読書に対する意欲をもたせる。 ・図書館祭りを行い，本に対する興味・関心を高める。	B	・司書補の先生を中心に、本の貸し出し数が増えるような取り組みをしてきたが、思うように貸し出し数が伸びなかった。本に興味があったり、図書館で行われるいろいろな取り組みを楽しみにしたりしている児童については、意欲的に図書室に通って本を借り、貸し出し数を伸ばすことができ、目標冊数を達成することができている。しかし、なかなか図書室に足が向かない児童については、司書補の先生や図書館主任、図書委員会の呼びかけだけでは不十分であり、目標冊数を達成することができなかった。担任の先生の協力が必要である。 ・とても古かった図書室の机と椅子が半分新しくなったり、子どもたちが手に取らないような古い本の整理をしたりしたことで、図書室が明るくなり、児童が楽しんで読書をすることができるような図書室になった。	・今年度同様、児童が意欲的に図書館に通い、たくさんの本をかりることができるように、図書館でいろいろな取り組みを行うようにする。図書委員会を中心に、児童の意見も取り入れるようにする。 ・児童だけでなく、担任の先生にも積極的に児童の本の貸し出しの呼びかけの協力をお願いする。
	●教育の質の向上に向けたICT利活用教育の推進	ICT機器の活用場面を意識した授業づくり	・ICT機器を活用した参観授業を年間2回以上実施	・電子黒板の活用頻度を高める。 ・スパーティチャー（ICT）を招いた研修を行う。 ・ICT支援員によるミニ講座を機器の活用スキルを高める職員研修年3回以上行う。	A	・ICTを活用した参観授業を年間2回以上行った。 ・本年度、スーパーティーチャーによる研修会を行うことができた。デジタルワークシートを用いた授業実践を中心に、SKYMENU等の使い方、ICTを使う意義を教えていただいた。しかし、校内でのミニ講座を行うことはできなかった。 ・学校評価アンケートでの教師の意識調査、「ICT機器を効果的に活用した授業改善に努めているか。」という質問項目において第一回は3.5ポイント(満点4.0)であったが、第二回では、2.9ポイントと—0.6ポイント下がる結果となった。様々な理由から活用することへの抵抗感を取り除けなかったと感じている。しかし、活用の機会が減っているわけではないので、この結果は、先生方のICT機器を活用した授業を行わなければならないという意識に変わってきたことの表れであると考える。	・来年度は、今年行えなかったICT機器に関するミニ講座を開きたい。その中では、基本的な機能の使い方を教えていただいたり、先生方が悩まれていることを解決する時間を設けたりしたいと考える。 ・今年度は私自身、三根東小学校の機器に慣れることができた。来年度は、ICT担当として、より一層活用していく。また、先生方それぞれの実践を知る機械をつくりたい。ICTに関わる校内研修や、研究授業等の機会を利用して、それぞれの実践を紹介していただき、交流する機会を設けたいと考える。

②道徳教育・特別活動の充実と生徒指導の強化を図る

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○特別活動	・児童の主体的活動の推進	・委員会での企画・立案による、年1回以上の実行を目指す。 ・学級活動（話し合い活動）を年5回実施する。	・委員会において、自発的な創造工夫のある活動を推進し、活動を紹介する場を設定する。 ・学級において、自発的・自主的な実践活動に取り組む。 ・縦割り班活動（なかよしタイム）の充実を図る。	B	・各委員会活動で全校に関わる活動・集会等を企画立案し実践することができた。 ・委員会紹介をする集会を10月に開催し、活動内容等を下級生に紹介したり、お願いしたいことを伝えたりすることができた。 ・委員会活動に積極的に活動している児童が多く、児童の活躍の場を増やすことにつながっている。 ・学級活動の中で学級会を2年以上は5回以上実施することができている。しかし1年生については未だ教師主導で話し合いを行うことが多い。 ・学校アンケートに児童会活動が関わった学校行事が楽しいと回答した児童が88%を超えている。 ・縦割りそうじだけでなく、なかよしタイムでの活動で上級生が下級生に優しくお世話をしていて、楽しく活動できている。ウォークラリーや縄跳び大会などの活動もあり異学年間での交流ができている。	・委員会活動や縦割り活動の内容がマンネリ化しないように、児童とともにアイデアを出して新しい取り組みも奨励していく。 ・低学年から少しずつ役割を決めて話し合い活動ができるように手立てをとっていく必要がある。話し合い活動を発達段階で進めていくために学級会グッズやマニュアル等を共有化できるようにする。
	●心の教育	道徳教育の充実	・道徳の参観授業を全学級1回以上目指す。 ・「私たちの道徳」を活用した授業実践を行う。 ・2月13日は、命を考える日の集会を行い、一人一人に命の大切さを考えさせる。	・ふれあい道徳の実践を通して、保護者と連携する。 ・命を考える日の前までに、学級で命の大切さについて扱う授業を実施する。	B	・ 授業参観でのふれあい道徳で、学級1回以上を実践することができた。 ・「命を考える日の集会」「人権集会」を通して、全校で時間を共有し、命の大切 さを話し合うことができた。	・週1時間の道徳の時間を確実に確保し、児童の学校生活の質の向上を図る。 ・「命を考える集会」「人権集会」「2月の生活のめあて」など、児童に命の 大切さを考えさせるよい取り組みがされているので、継続させたい。

③健康・安全教育の徹底強化を図る

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	危機管理体制の確立	・避難訓練（年3回実施）を徹底する。 ・地区での児童の登下校の様子を学期に1回以上把握する。	・避難訓練を徹底することで、平時の危機管理意識を高める。 ・避難訓練のうち1回は、休み時間に行なう。 ・不審者情報や緊急事案発生の際に、学校情報携帯メール配信を確実に行う。	B	・火災・地震・不審者避難訓練をそれぞれ専門家の指導の下、行うことができた。児童は、安全に非難するときの約束を守りながら、避難することができている。 ・抜き打ちの避難訓練の際、緊張感がない場面があった。また、低学年の児童がどう行動すればよいか、迷っている様子があった。 ・地区での登下校を定期的に観察することができた。 ・休み時間に、抜き打ちの火災避難訓練を行った。児童は放送をよく聞き、慌てずに避難することができていた。教師がいない場面でも、児童同士声を掛け合う姿が見られ、自分たちで命を守ろうとする意識が育まれつつあると考える。	・避難訓練の時の指導で終わるのではなく、災害や事件がいつ起こるかわからないことを踏まえ、いつ起きても適切に行動できるよう繰り返し指導していきたい。 ・また、訓練であっても実際に起きた時のことを想定して考えるということが十分でなかったと感じたので、来年度は教員間で共通の意識をもち、児童がより真剣に取り組めるようにしていきたい。
教育活動	○安全な生活	安全教育の推進 無事故実績の継続	・登校の様子の振り返りを月1回実施する。 ・自転車乗車時のヘルメット着用率100%を目指す。 ・防犯ブザー携帯率100%を目指す。 ・事故のない安全な登下校を行う。	・毎月1回、一斉下校時に「登下校振り返り」を地区 ごとに実施し、状況把握と指導を行う。 ・生活朝会等でヘルメット着用を確認する。 ・防犯ブザーの携帯状況を月に1回確認する。 ・年に1回以上は親子通学路点検を行い、危険箇所マップを再点検する。	B	・朝の登校の時間には、教師が各地域に立ち、安全に登校できているかの確認と指導を行うことができた。 ・毎週水曜日には、一斉下校を行い安全に帰れているかの確認を行った。また、登下校の様子を観察し、適宜児童にフィードバックした。 ・今年度、児童の交通事故件数は0件であった。 ・学校評価アンケートにおいて、防犯ブザーの所持とヘルメットの着用に関しては約98%の児童が行っているようである。	・毎日登校の見守りをしてくださっているサポーターの方とコミュニケーションをとり、児童の実態把握をしていきたい。 ・下校の様子を見守る機械をもち、実態把握に努めたい。 ・一部の児童が防犯ブザーを所持していなかったり、ヘルメットを着用していなかったりしているようなので、来年度も、交通事故が0になるように、引き続き安全に登下校の時の注意点を話したり、観察したことをフィードバックして児童に振り返らせるようにしたりしたい。 ・家庭や、休日の安全に関する指導をする機会が少なかったので、来年度はもう少し機会を設けたいと思う。

（教育活動　続き）	●健康・体づくり	ヘルスプロモーションを目指した健康づくり	・「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発を年に3回 以上行う。 ・歯磨きの徹底を図る。 ・むし歯保有率を20%以下にする。	・生活リズムアンケートを年3回実施し児童に意識づけを行う。 ・生活リズムアンケート結果を便りに載せ、保護者の関心を高める。 ・歯磨き指導を行う。歯みがき強化期間を設ける。6/4～ ・歯の検診結果う歯保有の児童に、年に2回　病院受診を勧める。	B	・朝食アンケートや朝食がんばりカードを実施した。夏休みや冬休み前の保健だよりに生活リズムについての記事を載せた。歯みがき指導については、1年・3年・4年・5年は歯科校医や歯科衛生士によるブラッシング指導を実施した。2年は、授業参観時に歯みがき指導と歯の講話を実施した。6月には体育保健委員会が中心になり歯みがき強化を呼びかけた。歯の検診の結果を全家庭に知らせ、う歯や歯肉炎がある児童には治療勧告をした。冬休み前に未受診者については、再度治療勧告をした。歯科検診時のう歯保有率は22.4%だったが、現在う歯保有率は14.9%である。また、全校児童にう歯の治療状況がわかるように掲示物を作成した。	・学校での給食後の歯みがきはできているが、長期休業中の歯みがきができていない児童が多い。早寝・早起き・朝ごはんについても長期休業中ができていない傾向にある。保護者の協力を得ながら、早寝・早起き・朝ごはん、歯みがきなど基本的生活習慣が身につくように継続して取り組んでいきたい。
		体育の時間・体育的行事の充実	・体育的行事では児童の主体的活動を入れる。 ・なかよしタイム等において、児童の主体的な活動を10回以上行う。	・児童主体の運営で運動会・縄跳び大会を計画する。 ・佐賀県が推進している「チャレンジプラン」に学期に1回以上参加し、運動能力を高める。	B	・運動会は例年通り、児童の主体的な活動を取り入れた活動を行うことができた。特に、主体的に活動できた場として、開閉会式の運営、5・6年児童による応援団の構成および取り組み。運動会のシンボルづくりなど、運動会の成功のために全校児童が意欲的に取り組む姿が至る所で見られた。 ・本校の縄跳び大会の時期が遅く、佐賀県のスポーツチャレンジの最終的な締め切りの時期が早く設定されているため、取り組みの結果をインターネット上に掲載することはできなかったが、学級や縦割り活動で大縄跳びの種目にチャレンジできた。特に縦割りでの大縄跳びの活動は全校体育の役割を果たしている。 ・運動会での児童会競技の実施や児童が自主的にできる活動の幅を広げていくこと。 ・スポーツチャレンジの大縄跳び以外の種目への参加を奨励すること。	・児童会競技実施のためスローガンを決定する代表委員会に児童会種目を話し合う場を設けること。 ・運動会に向けて児童に担当できる係を精選し、さらに自主的な活動ができる場を設けること。 ・スポーツチャレンジの競技を縦割り班活動の年間活動計画の中に位置づけ実施していく。
		子どもの健康を育む総合食育の推進	・朝食の喫食率100%を目指す。 ・給食の残菜0を目指す。	・生活アンケートを行い、朝食の内容に関心を持たせる。 ・アンケート結果の考察を保護者に配布する ・給食の残菜調べを学期に1回行い、意識化を図る。 ・栄養教諭によるTT授業を行い、意識を高める。	B	・朝食の喫食率100%を目指していたが99%であった。目標の9割以上を達成できた。 ・給食の残食0を目指していたが残食率は1%であった。目標の9割以上を達成できた。	・生活アンケートや授業実践を通して、朝食に関心を持たせる。さらにアンケート結果の考察を保護者へ配布し、朝食の大切さを認識させる。 ・給食の残食調査を学期に1回行い、意識化を図る。さらに栄養教諭によるTT授業を行い、バランス良く食事を取ることの大切さを知らせる。

④　特別支援教育,人権・同和教育・同和教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	●いじめの問題への対応	教育相談の充実 生徒指導の充実 特別支援教育の充実	・生徒指導連絡協議会を月1回行う。 ・学校が楽しいと答える児童を90%以上にする。 ・年度初めにインターネット環境についてアンケートをとり実態把握に努める。 ・「なかよしアンケート」の月1回の実施を目指す。 ・校内就学支援委員会を年1回以上実施する。	・気になる子に配慮するとともに、学期に1回は情報を共有し、みんなで育てる体制をつくる。 ・専門機関との連携を図る。 ・毎週の連絡会等を活用しながら、随時、児童の実態把握と指導についての共通理解を図る。 ・個別支援・指導計画に基づいた一人一人の特性に応じた支援・指導の実施。	B	・気になる児童は、定期的に行っている生徒指導協議会やその他会議の中で共通理解することができた。 ・毎週水曜日の一斉下校の際、人との関わり方や、協力することの大切さについて児童に考えるよう促す話をするよう心掛けた。 ・学校評価アンケートにおいて、学校生活が楽しいと答えた児童は97%であった。 ・児童の問題行動についての協議の際に、どう支援するかを話し合うのではなく、問題を指摘して終わることがあった。	・来年度は、みんなで育てる体制がより浸透するよう働きかけたい。生徒指導協議会の運営や全校児童に話をする機会が与えられているので、有効に活用していきたい。・みんなで育てるという意識のもと、担当はあっても、一人の責任にするのではなく、全職員、全校児童の力で解決していけるような体制づくりに努めたい。 ・先生方はももろん、接点が得難い全校児童にも積極的に関わっていきたい。私自身、担当学級だけでなく、学校全体の様子を観察する意識を高め、よりよい校風が生まれるよう声かけをしたり、見守ったりしていきたい。
教育活動		人権教育の推進	・人権集会を学期に1回以上行う。 ・縦割班活動の充実を図る。 ・人権の視点に基づいた学習を各学級必ず行う。	・人権集会（6・8・12月）を活用し、人権意識を高める。 ・清掃や遊びの中で、自然に高学年から学べる環境を大切にする。	B	・人権集会を児童会中心に実施したことは、児童にとって身近な内容で素直に考えることができ、自分を振り返る良い機会となっている。 ・清掃や遊びを縦割り班活動に位置付けたことは、上学年から下学年への気配りをしたり方法を教えたりすることが自然にできていて良かった。下学年の児童にとっては心強く感じていたように思う。しかし、中には性格的に声かけが苦手な上学年の姿があり、下学年の子に遠慮しているような面もある。 ・人権に基づいた学習は、どの学級も実施することができており、保護者からの評価も上がってきている。児童間で何かトラブルがあった時は、見落とすことなく児童が納得できるように指導に当たることができていた。	・夏期休業中の職員研修に、人権・同和教育研修を位置づけ、講師招聘の上、教師の人権感覚を磨く機会としたい。（三校合同研修会） ・人権意識を地域にも広める視点を持って、各学年、年1回の公開学習を位置付けるとともに、教材開発を含めた研修の機会を持つ。

⑤地域に根ざし、地域に開かれた学校づくり

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○　開かれた学校づくり	開かれた学校づくりの推進	・学期1回のフリー参観デーを実施し、保護者80%以上、地域住民30名以上来校を目指す。 ・地域が参加できる行事を年に3回以上行う。 ・まちこみメールを緊急時の連絡方法として活用する。	・フリー参観デーの広報活動を校区内の全世帯に行い、各種会合時に広報する。 ・各種行事についての案内を保護者及び地域に配布し、積極的に広報する。 ・全保護者に登録を依頼し、登録率100%を目指す。	A	・アンケートの「授業参観、学級懇談会、PTA活動などに進んで参加しておられますか。」の質問に、「大体あてはまる」以上と答えた保護者が84．3%いた。 ・みやき町教育の日（地域公開授業参観）を学期に1回ずつ年3回行った。その他、地域の方が参加できる行事を年2回行った。 ・アンケートの「本校は『まちこみメール』を児童の安全確保や行事等の連絡のために有効に活用していると思うか」の質問に、「大体あてはまる」以上と答えた保護者が99%いた。	・授業参観の際に、保護者や地域の方に気づきを書いていただき、学校の教育活動の質の向上に活かす。 ・授業参観に来校された保護者の数を記録する。
		幼保小中連携の推進	・幼保小連携においては、交流会（低学年との交流・体験入学）を2回以上行なう。 ・教科指導、生徒指導の視点をもった小中交流会を年3回以上開催する。	・幼保との連絡協議会、中学校との交流会の場だけでなく、授業参観の機会を活用し、具体的な情報交換を重ねる。 ・みやき町内小中学校の校内研究における講師招聘の共有を図る。	B	・幼保小連携において、今回交流会（低学年との交流・体験入学）を1回しか行うことができなかった。 ・夏季休業中の8月8日（水）に教育相談と服務についての研修、8月23日（水）に特別支援教育とメンタルヘルスについての研修、冬季休業中の12月25日（火）に道徳科の授業づくりや評価についての研修と、年3回小中合同研修会を行うことができた。 ・現在6年生の特別支援学級の児童について、小中の担当者同士が情報交換を行う機会をもつことができた。	・今年度、小中の教員同士の情報交換を必要に応じて開催することができたのがよかったので、今後は教頭同士が依頼の電話をかけた後は、担当者同士が連絡を取り合うようにしたい。その方が気軽に話し合いができると考える。 ・今年度同様次年度も、年3回小中合同研修会を継続して開催したい。 ・中学校の先生が、小学校に来て授業していただける機会があると、小学生にとってもよい経験になる。今後、小中学校の教員同士が互いのことを理解し合えるように努めていきたい。
		教育活動の広報	・学校便りは年間20回以上発行する。 ・HPは月に1回以上情報発信のため更新する。	・新聞・テレビ等の取材を積極的に受け入れ、広報に努める。	A	学校だよりは2月末現在で19号まで発行できており、3月までに目標の20号が配布できる見込みである。HPについても、学校だよりの掲載や年間行事予定の更新、学校評価計画等の更新はできた。また、新聞・テレビ等には主な行事について記者クラブへの投げ込みによる情報提供を行い、本年度はテレビのニュースや新聞にで5～6回ほど報道してもらった。	学校行事や取り組み等の取材については、引き続き記者クラブへの情報的今日を続けて広報に努める。 学校だよりについては年間20回以上を維持するとともに、内容面でも行事の紹介ばかりでなく、そのねらいや学校目標との関わりなどの紹介も含めて保護者への啓発に努めたい。 学校HPについても、行事・学校評価・学校だよりの更新だけが中心となってしまったので、職員で分担することでさらに幅広い構成にしたいし、またスマートフォンでの閲覧に適した構成にもしたいと思う。
教育活動		地域の「人・もの・こと」を生かした、生活科や総合的な学習の推進	・生活科や総合的な学習の時間において、地域の方々と連携した取り組みを各学年1回以上は実施する。	・各学年、計画的に地域の方々と連携し、ゲストティチャーを招いた取組を行う。	B	・地域のすばらしさに気付き，それを人に伝えようとすることで，地域を身近に感じ，地 域の社会や自然に興味をもつようになった。 ○ 必要に応じてインターネットでの調べ学習ができるようになった。	・学んだことを生活に生かす力をはぐくむた めに，もっと自分の周りや学校に目を向けられるようにすることが必要。 ・ 個に応じた，より多様な表現方法や情報収 集の方法が学べるような支援を工夫する必要がある。

⑥健康で明るい教師が高きに和す学校づくり

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務の効率化 役割分担の適正化	・平日（金曜日以外）は19：00までに、定時退勤日（金曜日）は17：00までに全職員が退勤する日を80%以上にする。 ・時間外勤務については、前年度より20%削減を目指す。 ・特定の職員に業務の負担が偏らないよう役割分担の適正化を図る。 ・全校に係る業務や様々な事案への対応については、全職員で取り組む。	・平日や定時退勤日の退勤時刻を、予め全職員に周知し、管理職自らが守るように心がける。 ・一人一人が業務改善の意識をもち、業務の効率化について考えるよう、個に応じたアドバイスを行う。 ・年度の途中でも、特定の職員に業務の負担が集中していないか観察し、課題がある場合は改善する。 ・全校に係る業務や様々な事案への対応については、全職員で取り組むように、管理職等が声を掛ける。	B	・平日（金曜日以外）は、ほぼ全職員が19：00までに退勤することができた。定時退勤日（金曜日）に全職員が17：00までに退勤できた日はほとんどなかった。 ・時間外勤務については、前年度は平均44．7時間、今年度は41．9時間（2学期まで）で、6%減ってはいるが20%削減には至っていない。 ・特定の職員に業務の負担が偏りそうな場面では、級外の職員が支援に入ることもあった。 ・全校に係る業務や様々な事案への対応に全職員が協力して取り組むことができた。	・定時退勤日（金曜日）に全職員ができるだけ早く退勤できるように、1週間の見通しをもって計画的に業務遂行することを勧める。 ・次年度も、全校に係る業務や様々な事案への対応を全職員が協力して取り組むよう、協働の意識を高める。

4　本年度のまとめ・次年度の取組

・全ての学年担任が全校研究授業を行うなど、積極的に授業力向上を目指して研鑽を積むことができた。また、普段の授業の中でも、児童の実態に応じて学習形態を変えるなど、工夫した授業を行うことができた。その成果もあり、全国・県学習状況調査の結果が概ね全国・県平均を上回ることができた。また、多くの授業でデジタル教科書を活用するなど、ICTを利活用した授業作りも進めることができている。また、ほぼ2週間に1回発行している学校だよりによる啓発の効果もあり、毎学期のみやき町教育の日には、多くの保護者だけでなく地域の方にも参観していただくことができている。課題の一つであった「読書指導の充実」については、達成度としては、余り高くない結果であったが、図書館教育主任や図書館司書を中心に、子どもたちの読書への関心・意欲を高める工夫に取り組んできた結果、一人あたりの年間読書冊数が昨年度よりも平均9冊増えた。次年度も、「読書指導の充実」については、引き続き重点課題の一つとして取り組んでいきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目